

---

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

---

2007年8月29日号

©2007年7月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年7月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 上半期の油糧輸入は減少、食用油輸入は大幅増

海関統計によると、2007年6月の油糧輸入量は、前年同月比32.1%減の253万トンとなった。うち大豆は31.4%減の252万トン、菜種は98%減の611トンであった。油糧輸出量は、同37%増の13.5万トンとなった。うち落花生は53.4%増の7.2万トンであった。

また、6月の食用植物油輸入量は、前年同月比2.8%増の48.4万トンとなった。うち大豆油は25%増の8.1万トン、パーム油は8.7%減の36.7万トン、菜種油は10倍増の2.2万トンであった。

2007年上半年期の油糧累計輸入量は、前年同期比2.5%減の1,430万トンとなった。うち大豆は1.5%減の1,385万トンで、油糧輸入の96.9%を占めた。菜種は15%減の35.2万トンとなった。同じく油糧累計輸出量は同21.5%増の73万トンとなった。うち落花生は24.7%増の38.9万トンであった。食用植物油の累計輸入量は、同31.6%増の370万トンとなった。うちパーム油は16.1%増の236万トン、大豆油は48%増の113万トン、菜種油は55倍増の13.3万トンであった。

2 2007/08年度の世界の油糧生産量は減少、食用油在庫量も減少

米国農務部（USDA）の7月の予測によると、2007/08年度（2007年10月～2008年9月）の世界の油糧生産量は、前年度比2.3%減の3.957億トンと見積もられている。うち大豆、綿実およびヒマワリ種子は、それぞれ5.9%減、1.1%減及び0.8%減で、落花生は前年度並みとみられている。世界の油糧圧搾量は3.5%増の3.429億トン、油糧期末在庫量は

18.4%減の5,844万トンと予測されている。

2007/08年度の世界の食用植物油生産量は、前年度比4.1%増の1.269億トンと見積もられている。うち大豆油は4.3%増の3,755万トン、菜種油は5.4%増の1,847万トン、パーム油は5.9%増の3,900万トン、ヒマワリ油は0.4%減の1,074万トン、綿実油は前年度並みの484万トン、落花生油は0.2%減の487万トンとみられている。世界の植物油消費量は、前年度比3.9%増の1.265億トン、植物油在庫量は8%減の768万トンと予測されている。

### 3 国内の油糧価格は堅調に推移、食用油価格は高水準で小幅な動き

【菜種】今年の菜種の総生産量は3年連続の減少とみられ、国内の菜種需給が逼迫している。加えて、菜種の国際価格は上昇傾向で、国内の油脂市場も大幅に高騰しており、新たな搾油用菜種の買付価格は高水準で堅調に推移している。7月31日の四川省の菜種買付価格は、1斤（約500g）当たり1.98～2.00元、貴州省は1.86元、湖北省は1.80～1.84元、湖南省は1.80元、安徽省は1.80～1.85元、江蘇省は1.82～1.85元で、前年同月に比べ、新たな搾油用菜種の買付価格は50%前後高騰している。

【落花生】7月下旬以降、国内の落花生市場は引き続き高水準を維持したものの、各地の大・中型搾油工場の買付価格は下落した。生産地の落花生価格は高水準で安定的に推移し、一部の地域では上昇しているものの、買付量はそれほど多くはない。新収穫の落花生が大量に市場に出回る前は、国内の落花生価格は引き続き堅調に推移するとみられている。7月の鄭州食糧卸売市場における2級落花生（殻なし）の卸売価格は、1トン当たり7,800元で、前月比7.5%高、前年同月比32%高となった。

【大豆油】国際市場における大豆及び大豆油の先物価格下落は、中国市場に大きな影響を与えた。同時に、国内の大豆油消費量は閑散期に入り、需要がおう盛でないことから、価格は高水準ながら小幅変動となった。月末には価格が全面的に反発したものの、今後も小幅な値動きをするとみられている。7月末の山東省における4級大豆油の工場出荷ベースのオファー価格は1トン当たり8,250元、黒龍江省は8,450元、江蘇省・浙江省地区は8,300元で、前月比で平均3.7%高、前年同月比で平均約65%高となった。

【菜種油】7月の国内菜種油市場は全体に安定的に推移し、パーム油及び大豆油の高騰により、新収穫の菜種油の工場出荷価格は、高水準で堅調に推移している。7月29日の貴州省における新収穫の菜種油の工場出荷ベースのオファー価格は1トン当たり8,800～8,850元、江蘇省は8,700～8,800元、四川省は9,400～9,500元、湖南省は8,600～8,700元、安徽省は8,800～8,900元で、前月比で平均2.7%高、前年同月比で平均65%高となった。

【落花生油】7月の国内落花生油市場の成約量は小さく、一部の地域では価格が小幅ながら下落した。現在、国内の落花生価格は比較的高水準で、一部の搾油工場では価格を下げた販売を促進しているところもあるほか、いくつかの工場では、落花生油よりも安価なサラダ油を販売していることもあり、もともと売れ行きがよくない落花生油市場に不利な影響を及ぼしている。しかし、生産地の落花生供給量は日を追うごとに減少し、落花生価格が引き続き堅調に推移していることから、落花生の搾油コストは上昇しており、このコスト要因が落花生油市場を支える大きな要素となっている。落花生油価格は、新収穫の落花生が市場に出回る前には、現在の価格帯で推移するとみられ、その市場価格は大幅には下落しにくい状況にある。7月下旬の福建省廈門市における2級落花生油の卸売価格は、1トン当たり12,000円で前月並み、前年同月比15%高となった。

【パーム油】7～8月は盛夏でパーム油の国内需要が強く、港湾の在庫量が減少し、価格が大幅に上昇した。7月30日の天津港におけるパーム油（融点24℃）のオファー価格は、1トン当たり8,060～8,100元、張家港は8,080～8,100元、寧波港は8,100～8,120元、広州港は8,080～8,100元で、前年同月比で平均78%高となった。

#### 4 国際油糧・食用油の先物価格は大幅変動、輸入菜種価格は国産を上回る

7月は天候が国際大豆価格を左右し続け、原油価格の変動がこれを助長し、大及び大豆油価格は大幅に変動した。その影響に加え、カナダドルの為替変動もあり、7月の国際市場における菜種価格は、上昇と下落が交互に鮎津源することとなった。月末における、8～9月出航予定のカナダ発中国向け菜種のCNF（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB価格＋運賃）は1トン当たり464ドルで、前月比2%高、前年同月比46%高となった。南米の未精製大豆油価格は同861ドルで、前月比3%高、前年同月比56%高となった。マレーシアのパーム油（融点24℃）価格は同842円で、前月比7.7%高、前年同月比78%高となった。

7月下旬のカナダの菜種CNF価格に基づく試算によると、輸入菜種の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、江蘇省・浙江省地区の新収穫の菜種工場買取価格に比べ1トン当たり770元前後高く、南米の未精製大豆油の通関渡し価格は、山東省の4級大豆油の平均工場出荷価格より同50元低い。